

テトラネクチンの骨折治療への臨床応用

整形外科 射場浩介

(内容の要約) 整形外科領域において骨形成能を促進することは、骨折をはじめ種々の疾患治療において重要である。これまでの基礎的研究で細胞外基質蛋白の1つであり、ヒト血清中にも存在するテトラネクチンが骨形成過程において強く発現し何らかの重要な役割をもつことがわかってきた。現在、骨折を中心とした外傷、骨疾患への臨床応用について研究をおこなっている。

内容の詳しい説明、図など

テトラネラネクチン欠損型(TET -/-)と野生型(TET +/+)
マウスを用いた骨折試験

TET +/+

TET -/-



TET-/-マウスでは
骨折遷延治癒を認める

リコンビナントテトラネクチン
タンパクを作製してTET -/-
マウスの骨折部に投与

骨癒合促進効果についての評価

テトラネクチンの骨癒合
改善効果の検討

骨癒合遷延治癒患者への臨床応用

ヒトテトラネクチン
血清中濃度10mg/L

血清採取

テトラネクチン
タンパクの精製

テトラネクチン
タンパクの
骨折部への投与

